



「ミサイル配備を断念させよう」と声をあける市民大集会参加者=27日、沖縄県うるま市

沖縄・うるま市民大集会

ミサイル配備断念を

署名呼びかけ

沖縄県うるま市の陸上自衛隊勝連分屯地へ地対艦ミサイル部隊配備計画の断念を求める市民大集会が27日、同市で開かれました。

「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会」が主催し、5200人が参加しました。

市民の会の照屋寛之

共同代表は「殺傷能力のある恐ろしい武器の配備を絶対に許してはならない」と強調しました。日本共産党的な「うるまのミサイルは、あくまでも惠祐議員は祖国の戦争体験を語

基地計画は、アメリカの国家戦略で経済的にも軍事的にも競争相手である中国に対する軍事的な包囲網を日本と一緒につくるものだ」と告発し、「新しい戦前を止めよう」と激励。参院会派「沖縄の風」の伊波洋一、高良鉄美両議員、麗良朝博前衆院議員も訴えました。

「大分敷」ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会からスッセー

ジが寄せられました。

市民の会の宮城英和

事務局長が、同分屯地

内でのミサイル連隊本

部庁舎の建設などミサ

イル配備に向けた整備

実態を解説。中村正人

うるま市長らに対しても

「未来ある若者を戦争で殺し殺される状況に置かないために運動を大きく広げよう」と力を込めました。

「大分敷」ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会からスッセー

ジが寄せられました。

市民の会の宮城英和

事務局長が、同分屯地

内でのミサイル連隊本

部庁舎の建設などミサ

イル配備に向けた整備

実態を解説。中村正人

うるま市長らに対しても

「未来ある若者を戦争で殺し殺される状況に置かないために運動を大きく広げよう」と力を込めました。

「未来ある若者を戦

争で殺し殺される状況に置かないために運動を大きく広げよう」と力を込めました。